

しあわせも 宝ものも ここにあるよ。

地域の魅力と優しい心を伝えたい
絵本でつづった私たちの郷土愛



中島 公さん(左)と中村 綾子さん



▶中村さんたちが制作した絵本「しあわせさがし」と「中洲のたからものさがし」、
「たからものマップ」

中洲学区では「しあわせさがし」「中洲のたからものさがし」という2冊の絵本が全戸配布されています。
今回は、絵本のお話と挿絵を手掛けた新庄町在住の中村綾子さんと中島公さん取材しました。

しあわせさがし

仲良しの中洲っ子3人組(小学1年生)が、下新川神社やコスモス畑など学区内を探検した時に出会った地域の人のふれあいから、学んだこと、感じたことが絵日記調で描かれています。
生活の中から、しあわせな気持ちになれることがたくさんあることに気づきます。

中洲のたからものさがし

「しあわせさがし」の続編として作られました。絵本に描かれている「たからものマップ」も一緒に作成しました。
小学5年生となった中洲っ子3人組が、マップを手に学区内にある宝ものを見つけ、中洲の良さに気づきます。彼らはまことに愛着が湧き、中洲を誇りに感じています。
今回は、野洲川に住んでいるカワセミが登場し、3人組を観察します。

知恵を出し合って「福祉の心」伝わる工夫

絵本をつくるきつかけとなったのは、「中洲学区福祉のまちづくり推進計画」の資料でした。
第1次計画の冊子は、内容が住民に伝わりづらいものでした。

平成27年に、各団体が協力して素敵なまちにしようという中洲学区独自の「中洲学区21活動協議会」で第2次計画を作るこ

とになり、社会福祉協議会(社協)を中心に、約10人のメンバーが選出されました。

メンバーは、学区や第1次計画の課題を洗い出したり、新しい計画を立てるための資料を集めたりしました。その中で「リーフレットにイラストなどを入れて読みやすくしよう」ということになりました。

メンバーの一人であった中村さんが、絵が上手な近所の友達を思い出し、中島さんに白羽の矢が立ちました。

はじめての制作絵本 地域の輪を広げる効果

中島さんの描く優しく柔らかい絵は、リーフレットを一気に親しみやすくしました。

学区社協の富田秀圓会長は、完成したリーフレットを見て「子どもから高齢者までが親しめる絵本の形なら『福祉の心』を多くの人に伝えられるのではな

いか」と思いつき、絵本の制作が始まりました。

中村 綾子さん

現役時代は忙しくて地域をじっくり見ることもありませんでした。退職してから民生委員として地域福祉に関わり、見どころ、人の絆など中洲学区の魅力にすっかりはまってしまいました。

たくさんの人に中洲の魅力を知ってもらいたい。そう思いながら文章を作りました。



絵本づくりを振り返る

中島 公さん

絵を描くのが好きだったので、勉強しましたが、20年以上も家に飾るだけの趣味でした。

中村さんに声をかけてもらってから、リーフレットにはじまり絵本・マップなど絵を発表する機会も広がってきました。私自身も学区の魅力が改めて知ることができ、楽しみながらやってきました。



絵本づくりで気づいたしあわせと宝もの

小学校の先生だった中村さんは、絵日記調で小学生が主人公の親しみやすい文章にしました。中島さんは、イラストにする場所をスケッチして歩きました。もちろん絵本づくりは初めての素人ばかりで、何度も何度も修正して作業を重ねました。こうして完成したのが「しあわせさがし」です。

それから5年。「次も楽しみにしているよ」との住民の声を受けて、第3次計画に合わせて、2作目の絵本「中洲のたからものさがし」を作るようになりました。

身近な場所やもの、人も「たからもの」。地域に愛着をもち、住民であることに誇りに思う気持ちを表現することにしました。第3次計画と絵本を作った中

村さん、中島さん、上畑義宏さんからメンバーは「絵本づくりは私たちのしあわせと宝ものさがし」そのものだったかもしれないね。絵本には、中洲の良さを感じることや、生活の中で触れる優しい心や行動が『福祉の心』であることを知る2つの狙いがありました。昨年には「しあわせさがし」の歌もでき、子どもたちが元気に歌ってくれてうれしいと話していました。

絵本には「中洲は自然が多く、人も地域も本場に優しい」と「中洲大好き」の気持ちがいっぱいに詰まっています。



絵本の制作にたずさわった皆さん
(左から富田さん、中島さん、中村さん、上畑さん)